

2. ブドウの主枝下げが新梢誘引作業時間及び副梢生長に及ぼす影響（情報）

[要約]

ブドウ「ピオーネ」の主枝位置を下げると、新梢誘引にかかる作業時間が短縮されるが、副梢の生長が慣行より強くなる。

研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868- 57- 2758
------	----------	-----	----------------

[背景・ねらい]

ブドウ栽培において、新梢管理の省力化を目的に主枝の位置を下げて新梢を斜め上方に誘引する事例が増えつつある。しかしながら、新梢や果実生長に及ぼす影響は明らかでない。そこで、主枝下げの程度が作業性とブドウ生育に及ぼす影響を検討する。

[成果の概要・特徴]

1. 棚面高さは一定とし、慣行より主枝を10cm、20cm、40cm低い位置にそれぞれ配置し、新梢を誘引した結果（図1）、主枝位置が低いほど、誘引角度が大きくなって、誘引時にねん枝が必要な枝が減り、誘引作業時間が短くなった（表1）。
2. 本梢の生長には誘引角度の影響は認められなかったが（データ省略）、副梢生長は主枝の下げ幅が大きいほど盛んな傾向があり、最も大きい40cm区では伸長量が他の処理区より大きかった（図2）。
3. 果実品質への影響は認められなかった（データ省略）。

以上の結果、誘引作業の省力化を目的に、棚面高さから主枝位置を下げると、ねん枝の回数が減り作業時間は短縮される。しかし、下げ幅が大きいと副梢生長が強くなるので、樹勢の強い園では10cm程度の下げ幅が望ましいと考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は非常に樹勢が強い樹を用いて行った。
2. 主枝位置を下げると新梢管理が省力化されるが、主枝位置を10cmより大きく下げると、列方向以外に運搬車やスピードスプレーヤーが入りづらくなったり、果房が枝葉に接触しやすくなる。

[具体的データ]

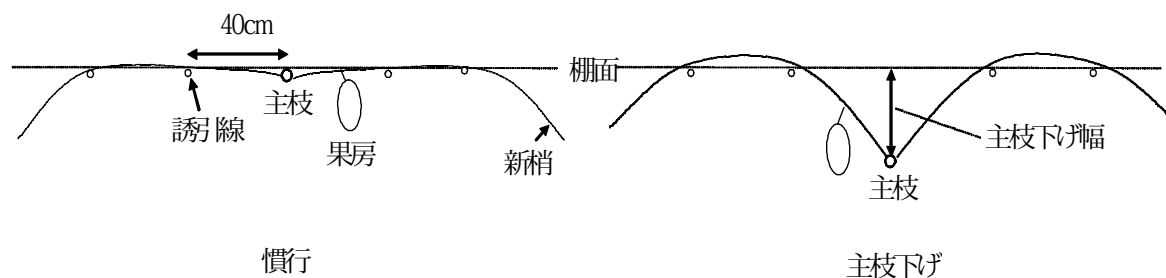


図1 主枝引き下げ試験の概略図

表1 新梢誘引高さの違いが「ピオーネ」の誘引作業時間に及ぼす影響

処理区	誘引角度(°)	誘引本数	ねん枝本数	誘引時間(秒)	1新梢当たりの誘引時間(秒)	誘引時折損数
40cm	45	36	0	309	8.6 (49.4)	0
20cm	27	48	0	481	10.0 (57.5)	0
10cm	14	54	4	675	12.5 (71.8)	0
0cm(慣行)	0	48	19	837	17.4 (100)	3

誘引時間右の()内は平行(慣行)を100とした場合の比数

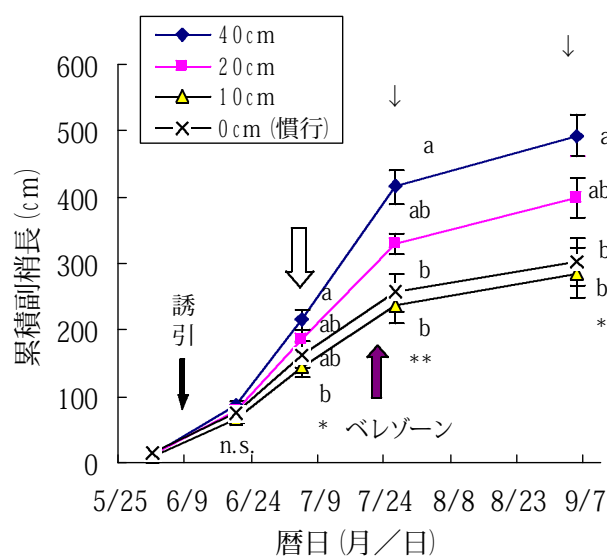


図2 新梢誘引の高さが副梢の生長に及ぼす影響
凡例右の異なる文字間に有意差有り (Bonferroni
法により検定、**：1% *：5%)
(バーは標準誤差 n=30)

↓は先端3節を残して摘心。↓基から全て切除

[その他]

試験研究課題・事業名：ピオーネ生産拡大のための省力・軽労及び早期成園化技術の開発
発

予算区分：県単

研究期間：平成15～18年度

